

総務常任委員会会議録

1 開会日時 令和6年6月18日（火）午前10時0分

2 閉会日時 令和6年6月18日（火）午前11時0分

3 会議場所 委員会室

4 出席委員

3 番	安藤 利博君	8 番	大口 浩志君	12 番	松田 勲君
15 番	下山 哲司君	16 番	実盛 祥五君	17 番	佐藤 武君

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

市長	友實 武則君	総合政策部長	倉本 貴博君
総務部長	戸川 邦彦君	財務部長	杉原 洋二君
赤坂支所長兼 市民生活課長	小坂 憲広君	熊山支所長兼 市民生活課長	稲生真由美君
吉井支所長兼 市民生活課長	中務 浩行君	消防長	檜原 秀幸君
総合政策部参与	岡本 和典君	秘書広報課長	小引 千賀君
政策推進課長	山崎 和枝君	総務課長	花谷 晋一君
くらし安全課長	正盛 充敏君	管財課長	大窄 暢毅君
税務課長	田渕 忠則君	消防総務課長	金光 正浩君

7 事務局職員出席者

主 幹	青木 智彦君	主 任	平尾 和也君
-----	--------	-----	--------

8 協議事項 1) 令和6年度事業の補正について

2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（大口浩志君） ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

初めに、友實市長より挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 本日は大変お忙しい中、総務常任委員会をお開きいただきまして誠にありがとうございます。

なお、今日の委員会への報告、協議事項ですけれども、令和6年度事業の補正関係について及びその他の件を御説明させていただきます。よろしく御協議お願いしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（大口浩志君） これから協議に入ります。

本日は付託案件がございませんので、所管事務調査のみを行います。

本日の進め方ですが、令和6年度事業の補正について一括して説明していただき、質疑を一括して受けさせていただきます。次に、その他についても同様にさせていただきますが、そのように進めてもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） ありがとうございます。

令和6年度事業の補正について順番に説明をお願いします。

○総合政策部長（倉本貴博君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 倉本部長。

○総合政策部長（倉本貴博君） それでは、総合政策部関係の令和6年度事業の補正について御説明いたします。

まず、議案書の111ページを御覧ください。

第3表債務負担行為補正でございます。

市民バス自動車借上料、豊田・熊山線に係るものでございます。

続きまして、予算説明資料の14ページをお開きください。

歳出補正予算でございます。

2款総務費、1項総務管理費、6目企画費といたしまして、生活交通対策事業でございます。

15ページに移っていただきまして、補正概要でございます。

デマンド交通システムの開発実証実験等に係る経費でございます。

続きまして下の段、市民バス運行事業でございますが、補正額は計上しておりませんが、国庫補助事業に伴い財源更正するものでございます。これに伴う歳入は、その前の12ページ、13ページに記載してございます。16款国庫支出金、2項国庫補助金の総務費国庫補助金でござ

います。

以上で説明を終了いたします。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） くらし安全課の補正予算については、歳入1件、歳出1件となります。

補正予算の説明資料12ページを御覧ください。

歳入、16款国庫支出金、2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金の学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金につきましては、文部科学省が実施する補助事業を活用し事業を推進するものであります。

14ページをお願いします。

歳出につきましては、2款総務費、1項総務管理費、11目交通安全対策費です。交通安全対策事業につきまして、このたび学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金の内定を受けましたので、交通安全物品や啓発事業の推進を図るために事業を推進させていただくため、今回の事業費を計上させていただいております。

総務部からは以上です。

○財務部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 杉原部長。

○財務部長（杉原洋二君） それでは、財務部です。

予算説明資料の歳入の12ページをお願いいたします。

中段辺りの20款繰入金、財政調整基金繰入金、財政課の案件で、これは今回の補正予算に伴う財源調整を行うための繰入金の増でございます。

続いて、23款1項13目合併特例事業債でございます。これは、熊山保健福祉センターの改修に係る合併特例債の財源でございます。

財務部からは以上です。

○委員長（大口浩志君） それでは、説明が終わりました。

令和6年度事業の補正について質疑はございませんか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 23款合併特例事業債、これは特例債の使える部分は大半使い切れるような事業が確定しとんですかね。これをやったら後がなくなるとか。

○財務部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 杉原部長。

○財務部長（杉原洋二君） 合併特例債については、このうちまだ補正等で対応していく事業

が見込まれておりますので、それらを含めて全ての事業を実施していくよう今進めておるところでございます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 前に、年度のことばあ言ようられたから、間に合う、間に合わんというて。じゃから、それに間に合うようにこなしていけるんですかね、内容的には。

○財務部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 杉原部長。

○財務部長（杉原洋二君） 御指摘の時系列のレールはございます。そのレールに従って現在事業の推進を図っているところでございます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） さっきの下山委員の関連で、直接これではないですけど、特例債、今の予定を全部使ったとしてもどのくらい余裕があるのか教えていただきたいと思います。

○財務部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 杉原部長。

○財務部長（杉原洋二君） これから補正とか令和6年度の当初でありますとか繰越等がございますので、現在発行することができるのは30億円弱というところでございます。20億円後半、30億円弱というのが今の状況の残った枠でございます。

以上です。

○委員（松田 勲君） 分かりました。

○委員長（大口浩志君） ほかに。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 暮らし安全の交通安全対策事業で教えてください。

34万円の補正でトータル939万円余の予算があるんですけども、学校・家庭・地域連携協力推進ということで増額されてるんですけども、この地域連携協力というのは、交付はどういう団体と提携されているのか、分かれば教えてください。

○暮らし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君）　今回申請させていただきました事業につきましては、学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金というもので、学校を核とした地域力強化プランというメニューになっております。このメニューといいますのが、学校の通学に関してスクールガードリーダーの育成講習会、スクールガード養成講座、こういった見守り活動をする方々へのバックアップをするためにつくられた文部科学省の事業であります。この中に、今回見守り活動を実施するための事業が該当することができましたので、こちらに該当する消耗品類を計上させていただいたものでございます。

こちらを活用することで、補助対象経費の3分の1の補助額とはなりますが、当初予算と併用し活用することで一般財源の削減が図れると考えております。

先ほど御質問の団体という考え方ではないので、申し訳ありませんが現在の交通安全施設の整備の一助にしたいと考えております。

以上です。

○委員長（大口浩志君）　よろしいですか。

○委員（佐藤　武君）　いいです。

○委員長（大口浩志君）　ほかにございませんか。

○委員（松田　勲君）　委員長。

○委員長（大口浩志君）　松田委員。

○委員（松田　勲君）　説明資料の14ページ、15ページの中で、6目企画費の中の説明にライセンス使用料とあるんですけど、これは何のライセンスでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君）　委員長。

○委員長（大口浩志君）　山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君）　こちらが、今回熊山地域でデマンド型市民バスを運行する予定にしております、そちらの運行に際しましてA Iシステム等を導入して運行できないかと考えております。ということで、A Iシステム等を活用するためのライセンス使用料とお考えいただければと思います。

以上です。

○委員（松田　勲君）　委員長。

○委員長（大口浩志君）　松田委員。

○委員（松田　勲君）　A Iシステムというこれからの事業だと思うんです。いろんな中にA Iが潜んでるというのは分かるんですけど、具体的にA Iでどういったことをしようと考えていらっしゃるか教えてください。

○政策推進課長（山崎和枝君）　委員長。

○委員長（大口浩志君）　山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君）　まず予約等について、今は電話等で予約をいただいております。

ですけれども、スマホ等を活用して予約ができるシステムの構築、それから予約いただいた箇所、人等を最適なルートを検索して運行事業者にお伝えして、そのとおり運行するというシステムでAIを活用していこうと思っております。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 予約とかスマホでできるというのは分かるんですが、これ正直利用される方は高齢者が多い中で、いかに簡単にできるかが一番大切だと思うんですけど、これはアプリか何かを登録されて、それでできるようになるんですか。高齢者の方もしやすいシステムを考えていらっしゃるのか教えてください。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） おっしゃられますように、どなたでも簡単に活用できるように、アプリをインストールしていただいて、さらに運行開始前にはスマホ教室のような形で使い方の教室を地元に行って開催していきたいと考えております。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 利用される方は高齢者が多いので、本当に誰でも分かるような、簡単になるようなアプリをしっかりと作っていただいてしっかり説明をしていただければと思うんですけど、ライセンスということは、これ毎年かかるということですかね。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） そのシステムを導入している期間は必ず必要になってくかと考えております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） これは、今熊山とかの路線だと思うんですけど、ほかにもこれどんどん広げていく予定ですか。広げていくと、やはりライセンスも変わってくるんだと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） おっしゃられますように、今回は熊山地域で先行して実施をしていきたいと考えております。今後、今既にデマンドを導入している地域等にも広げていきたいと考えておりますので、実際広げていったときにどれだけライセンス料が必要になるかというの併せて検証していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） なければ、以上をもちまして令和6年事業の補正については終わります。

次に、その他についての説明を各部順番にお願いいたします。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） それでは、くらし安全課から能登半島の被災地支援について御報告させていただきます。

総務部資料の2ページ、3ページをお開きください。

七尾市テントプロジェクト閉村について御報告させていただきます。

先月の委員会でも御報告させていただきました七尾市テント村につきまして、5月29日に閉村いたしましたので御報告いたします。

その実績につきまして、運営期間につきましては記載のとおりとなります。

今回のテント村で活動いたしましたボランティア活動実績は、活動人員が5,401人、ニーズ処理件数は1,123世帯でありました。運営人員につきましても記載しておりますが、このうち赤磐市の職員派遣人数は延べ22人でございます。

運営に当たり様々な方々に御協力いただき、現地で被災状況や支援活動、ボランティアの方々と直接関わることで、職員にとっても大変ではありましたが有意義な活動となりました。また、協力自治体間で連携等も図れたことから、貴重な経験となったと考えております。

総務部からは以上でございます。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは続きまして、管財課から事業の進捗状況について御報告させていただきます。

財務部資料の2ページをお願いいたします。

前回の委員会でも御報告させていただきましたとおり、一部の部品の初期エラー以降は現在

も順調に、またより多くの方に御利用いただいている状況でございます。

利用状況につきまして、供用開始後、5月末までで延べ413回、1日当たり平均約10回、また充電時間も1回当たり平均24分ということで、30分のフル充電が約6割行われているという状況でございます。

参考に、表の右側にライフプラザ吉井のデータも記載しております。こちらも近年、稼働回数等大幅な増加傾向にございまして、出力容量がいきいき交流センターは55キロワット、ライフプラザ吉井が30キロワットとなっております、充電量に差が出ているところが見てとれることと思います。

次に、この充電器に係る電気料金でございますが、おおむね4月、5月でいきいき交流センターの使用量が2,906キロワット、ライフプラザ吉井が1,814キロワット、これに対する電気料金がそれぞれそこにお示しの額となっております。なお、ライフプラザ吉井につきましては施設本体、建物とかと合わせた1本の契約となっているため、計算により割り出した見込みの額とさせていただきます。なお、これによりまして1回当たりの電気料金を単純に計算しますと、桜が丘いきいき交流センターで411円、ライフプラザ吉井が270円となっております。

以上、このような状況を受けまして、市としましてさらなる利用増を図りつつ、また近隣の事例やイニシャル、ランニングコストを踏まえまして、下の表のとおり使用料案を検討しております。機器出力なども違うことから、桜が丘いきいき交流センターにつきましては最大30分1回当たりで500円、吉井ライフプラザにおきましては最大300円としまして、使用量に応じた従量制で御負担いただくという案でございます。

脱炭素社会の実現に向けて電気自動車の普及促進を市としても引き続き推進しながら、また利用者の方には使用する電気料の約実費相当分、こういったものを御負担いただくといったイメージとお考えいただきたいと思います。

今後も利用状況を見つつ、機器の稼働、こちらに努めながら、適正な制度構築を進めてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

管財課からは以上です。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 消防本部資料を御覧ください。

事業の進捗状況について、高規格救急車更新事業から御報告申し上げます。

今年の10月で12年が経過する救急車両の更新事業でございます。

予算額は3,860万円で、9月議会で議決いただいた後、本契約とし、令和7年2月下旬の納車予定で進めさせていただきたいと思います。

続いて、消防緊急通信指令施設保守委託事業についてでございます。

この事業は、通信指令施設の性能維持を包括的に確保し支障なく運用できるよう、保守点検

業務及び障害発生時における即時対応を委託するものです。

内容にあつては、定期点検を年1回、簡易点検は毎月1回行い、緊急時には24時間365日の対応としています。

次に、デジタル無線設備保守委託事業でございます。

先ほどの通信指令施設と同様に、デジタル無線設備全般の性能維持を包括的に管理し支障なく運用できるよう、保守点検業務及び障害発生時における即時対応を委託するものです。

次に、第70回岡山県消防操法訓練大会についてでございます。

開催日時と場所にあつては、令和6年7月7日日曜日、岡山市東区瀬戸町肩脊にございます岡山県消防学校にて開催されます。

つきましては、出動団員への壮行会を6月28日金曜日20時から赤磐市消防本部で行います。赤磐市代表選手の意気込みを感じていただき、激励のお言葉をかけていただければ幸いに存じます。

次に、第36回消防救助技術岡山県大会の出場についてでございます。

令和6年6月25日火曜日、岡山市中区桑野にあります岡山市消防教育訓練センターで開催され、赤磐市消防本部からは、先月15日に開催された本部内選考会を突破した隊員13名が出動します。

本大会の結果により、岡山市で開催される中国大会への出場、さらに千葉縣市原市で開催される全国大会への出場が期待されます。出場がかなえば、市のホームページ等で広く市民に広報していく予定です。

消防本部からは以上になります。

○委員長（大口浩志君） その他について、説明が終わりました。

ただいまの説明について質疑はございませんか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） いきいき交流センターの急速充電器ですが、金額が出たというのは分かるんですけど、これ時間で金額を決めたほうがいいんですかね。これ上の電気料金を計算すると1キロワット51円ですよ。キロワットでいったほうがいいんじゃないかと思うんですけど、これは時間にしたほうがやりやすいんですかね、その辺教えていただきたいんですが。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 電気の利用量に合わせてしたらどうかというお問合せでございます。

市としましては、先ほども言いましたようにキロワット当たりが出ています。自動車によって充電量というのは時間当たりで決まってくるので、課金システムを使って電子決済になっていくということですが、システムのやり方に合わせてこういう形にしてあるということでご

ざいます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） システム上、民間なんかも今出てると思うんですけど、大体皆時間でいってるんですかね。その時間というのは、あの充電器のところに時間とかが表示されるようになるんですかね、今はされてないけど。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 今得ている情報でありますと、時間当たりのところが多いように聞いております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） それと、吉井といきいき交流センターの差で時間が同じというものもあるんですけど、これは何か根拠があるんですかね。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） こちら、先ほど御説明させていただいたとおりでございますが、やはり出力量が55キロワットと30キロワットで違います。よって、時間当たりの充電量も違うことから料金の差をつけているということでございます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） いきいき交流センターが新しいんで、同じ時間でも充電の量が違うということですね、そう理解したらいいんですね。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 出力のもともとの機械の能力が違うもので、いきいき交流センターのほうがより多く短時間で充電できると考えていただければ。それに応じた金額とさせていただきます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 急速充電器の使用料案ということで、それぞれ使用料案が書いてるんですけども、55キロワットでフル充電した場合411円ぐらいでフル充電できるということですよ。そうした中で30分までがいきいき交流センターで500円ということですが、これ条例で使用料も決まるんだろうと思うんですけども、これから維持管理費もかかる、それから修繕も当然発生する状況の中で、使用料についてこの単価でいいんでしょうかね。もうちょっと大きく負担をお願いして、将来の維持管理費用を含めた対策を考えるべきではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 市もその辺は考えて検討しております。

国から、この春急速充電器につきましては公共が設置するもの、急速充電器は約3倍、普通充電器は約10倍と、それから県もこの春に計画を策定しまして推進していくという形でございます。市としましては、やはり普及を今後進めていくという状況から、現在のところは電気料金の実費相当負担額をしていただこうと考えております。

ただ、引き続き国、県、それから他市町村、こういったところの動向でありますとか、当然電気料金、それから利用状況、こういったところを見据えながら、引き続き金額については注視して検討していくということで考えております。

以上です。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） それでは、消防のほうでちょっと教えてください。

緊急通信指令とデジタル無線の保守委託がそれぞれ計上されてます。保守点検等についてはそれぞれ点検回数とか御説明があったんですけども、これは協和テクノロジーズが設置業者ということで、もう必然的に設置業者が保守点検をするということですね、これ確認です。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 先ほど委員おっしゃるとおりです。

設置業者であり、一から設備内容を把握していることはもちろんですが、人命に関わる業務になりますので、いち早く対応できる業者というのがこの請負業者になります。

以上です。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） それで、これが毎年の点検委託ということで予算が支出されるということですけども、これは他都市に比べてといいますか、点検費用を安くするようなことは将

来ないんですかね。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 他の消防本部と比較しましても特段高い状況ではありませんが、予算削減のために緊急に対応する場合の項目の中にスポット契約といたしまして、ここで決まった額を定額的に支払うのではなく、故障があった場合に支払う金額という形で工夫させていただいて契約金額、こちらを定額に抑えているところでございます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 経費削減に向けて、これからもより安い取組をお願いしたいと思います。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ぐらし安全課の件ですけど、御報告いただいて、職員の方がたくさんボランティアというか、そういった形でしっかり支援をされたというのがよく分かるし、説明も聞いたことあるんで、本当御苦労さまという、お疲れさまですという感じがします。まだまだ続くとは思いますが、これは市長にお伺いしたいんですけど、職員、ぐらし安全課が窓口になって行くというのは分かるんですけど、やっぱり当初、震災の2日目に行かれたということで、避難所の件もありますけど、やはりいろんな状態があると思うんじゃないけど、そういった場合は、今回消防からは出てないんですけど、そういったことは考えられないんですかね。要は、ある意味で危険な場所だと思うんですけど、そういった場合はやっぱり日頃訓練した者が行かないといけないんじゃないかという気がするんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 消防が支援に駆けつけるのは、あくまで人命救助、そして全国組織で緊急消防援助隊、これが組織されて派遣をするという形になりまして、今回も、緊援隊というんですけど、この待機がかかっておりました。なので、消防としては緊援隊の派遣を優先することから、こういった直後の避難所運営とか、物資とか、そういった部分は職員で行うということで、すみ分けをやらせていただいております。

あくまでも消防は訓練をして、人命救助をメインに活動していただくということで、一般行政職員を派遣し支援物資を持っていく、それから避難所の運営が大変でしょうからお手伝い

に行く、そういったことで実行させていただいております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） そういうことだとは思うんですけど、心配するんが、聞いた中で、初日行かれた場合に、やはり車も普通の車で行ったように聞いていますし、地震の後ですから道路も大変な状況だと思うんですけど、職員も毎年異動がある中で変わってきてると思うんですね。1回経験したら全然変わると思うんですけど、そういった日頃の、今回ある意味で福島県の件もあったと思うんですけど、いろんな教訓があると思うんですけど、そういったものを基本的には、異動があってもきちっと引継ぎできるものでしょうか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 事務的には引継ぎということも可能かと思いますが、やはり現地を経験しないと、この緊急時の対応というのは身につくところが最大の効果を発揮することにはならないんで、市としては、この支援を交代交代でできるだけ多くの職員に、部署にとらわれずに全庁的に対応し、特に若い職員にこの経験を積んでもらおうということで大勢の職員派遣をさせていただきました。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） やはり、行った話では、避難所でも女性の職員が1人で切り盛りしてたと、最初行った話を聞いたりもしたんです。赤磐市でも地震が、南海トラフとか来た場合、浸水はないにしても、いろんな状況にはなると思うんです。そうすると、職員自身もやっぱりそういった災害に遭ってるわけですから、そういったことに少人数でも何かこういった段取りができるような体制を今後生かしていけたらいいんじゃないかと思うんですけど、災害はいろんなことが想定されるんで、実際にまた変わるとは思うんですけど、そういった全体的な職員の避難所でのこととか災害でのこととかというのを教訓に引き継いでいくような形に考えていらっしゃるのでしょうか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 今回の派遣、それからもう一つ前の西日本豪雨の際の倉敷市への派遣、総社市への派遣、こういったもので、戻ってきた職員の意見とか報告を聞きまするに、やはり現地で実際に被災された方へ寄り添った支援をするということを、これはもう文書とか口頭で語り継いでも多分半分も伝わらないんじゃないかなと思います。短い日数でも、1日でも

2日でもより多くの職員が経験し、それを忘れずに、被災者に寄り添うという精神を養っていくという意味では、今回もより多くの職員に行っていただきました。帰ってきた職員、もう口をそろえて言ってます。本当にえらかった、しんどかったという言葉の後に、でも行ってよかったという言葉が出てます。これが、職員一人一人、より多くの職員に経験をさせていただきたいという思いを持っています。今後、大規模災害あつてはいけないんですけども、全国各地で発生すれば、同じように職員派遣をし、経験していただき、赤磐市の防災活動に役立たせていきたい、こういう思いを強く持っています。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかに。

佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 私もこれお尋ねさせていただこうと思ったんですが、写真にもありますように、友實市長の挨拶から、職員の皆さん本当に大変御苦労されたと思います。本当に御苦労さまでした。

それで、テントの数もかなり多く建てられたんじゃないかなと思うんですけども、このテントというのは、解散した段階で、どういう所有権になるんですかね。赤磐市も若干保管するような形になるんですかね、よく分かんないんですが教えてください。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） こちらテントにつきましては、今回のテントプロジェクトに際しまして、登山家の野口健さんがトップで準備していただきました。こちらのスポンサーであつたりそういったところからの寄附をいただき、テント等々の備品はそろえております。こういったことから、テントの終了後、片づけをして野口さんの事務所で管理いただいております。といいますか、もともとそちらのものなのでそちらが持っております。ただ、入り切らないものを市町村で置いているということで、半分総社市が持たれているということは聞いておりますが、赤磐市では在庫等々の管理は一切しておりません。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（佐藤 武君） いいです。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） なければ、以上をもちましてその他については終わります。

そのほか、委員または執行部から何かありましたら発言をお願いいたします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 最後にその他のその他で少し御案内をさせていただきたいと思います。

本年度も山陽団地等の活性化に資するためにひかりの実プロジェクトを実施する予定にしております。

本年度につきましては7月20日に山陽団地内の弥生公園で山陽夏祭りが開催されます。ですので、その前後の期間でひかりの実をとりたいと考えております。7月15日に組立てと取付け作業を実施します。

それから、山陽夏祭りでの会場でもワークショップを開催させていただいて、8月25日に収穫、解体作業をさせていただく予定です。ホームページ等で活動に御協力いただける方を募集しておりますので、そちらもぜひ御覧いただければと思っております。

それから、本年度につきましては、過去に2年間、山陽西小学校の児童の皆さんに笑顔の実を描いていただいて、その子供たちが今年高陽中学校で1年生、2年生になっておられます。彼らを中心に、今年は7月17日から8月24日の期間で高陽中学校の低木にもひかりの実を取り付ける作業をさせていただこうと思います。8月17日に、高陽中学生によります盆踊りの復活プロジェクトということで盆踊りも開催されるということですので、その期間の前後に飾りをつけたいと考えております。

ということで、また御協力いただける方は、今日もこちらに袋も用意させていただいておりますので、またよろしければ笑顔の実を描いていただければ幸いです。

以上です。

○委員長（大口浩志君） ほかにございますか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 副市長がおられんで前に市長しかおられんのじゃけど、この状態が続くんですか、ずっと。どういう考えでおられるんかお聞きしたい。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この席についてはまた委員長と相談させていただいて、このままじゃなく変えていきたいと思えます。柔軟に対応させていただきます。

もう一つ、副市長が突然退任されましたが、その後どうするんだという内容の質問かと思えます。

これについては、今回も急だったので、その後の人事というのは考えねばならないんですけども、今たちまち人事案を議会にお諮りするという状況ではないと、それ以上のことはまだこれから決めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 一般質問でもお話しさせてもらうんですが、やっぱり市長一人で何もかも見てやっていくというのは不可能じゃと私は思うんですよ。

企業誘致の話もしましたが、やはり市長の代理ができる者が、私はもう副市長2人でもいいと思うんですよ。よその例の話もさせてもらうんですが、やっぱり権限のある人が1人では無理じゃと思う、3人ぐらいおられんと、打って出ようという姿勢があるんならそういうことだと思ひ。もう保守的に考えて、守れば停滞するわけですから、打って出なったら先への伸びは何事にもないと思うんで、そういうことについてどうお考えがあるんかお聞きしたい。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 下山委員のおっしゃるとおりだと思います。できるだけ早く、この抜けた穴を塞ぐということを優先的に考えます。

また、もう一つ発展的に考えれば、2名の副市長の配置ということも十分視野に入れて進んでいきたいと思ひます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 私、個人的に考えれば、企業誘致をしたりいろいろなことをやるということになればやはり人数が多いほうがええんで、2名の副市長を置かれたらどんなんか、提案ですけど私はそう思うんで、しっかりお考えをいただきたいと思ひます。

○委員長（大口浩志君） 今のは答弁もらいますか。

○委員（下山哲司君） 答弁があれば。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 私の考え方も、今下山委員がおっしゃっていただいたとおりでございますんで、今後、赤磐市の市政推進のためにも、一日も早く任命していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○委員（下山哲司君） ありがとうございます。

○委員（実盛祥五君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 実盛委員。

○委員（実盛祥五君） 市長にお願いですが、今下山委員が言うたように、副市長が空白では赤磐市の前進を止めるようになりますんで、早く2人を置いて、どっどどっと前進のみで行けるような体制をつくっていただき、早う企業も呼ばにゃあいけんし、税収も上げる考えを持たないけませんので、今の空白では駄目だと思います。もう前進のみで、一日も早く2人ぐら

いの副市長を決めてください。お願いします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） もう本当、そのとおりだと思います。今赤磐市が進むべき一つの大きな柱、企業誘致というのを実現させるためには、やっぱり力を集中していかなければならないということから、おっしゃることを念頭に考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員（実盛祥五君） お願いします。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 私もぜひお願いします。

話は変わるんですけど、今工事でかなり音がにぎやかになっててあれですけど、前は本庁舎ができるときにはいろいろ見させてもらったんですけど、出来上がってみれば、えっということも正直ありました。

例えば、議場ももう少し床のあたりを変えてるのかな、変わったんかなとかいろいろ期待を持ったんですけど、いろいろ変わってなかったりとかして、後からまたじゅうたんをいらわれるということですけど、向こうの建物はここよりも耐震化しなくてはいけないぐらいの、何かかなり数値が悪かった記憶があるんです。耐震化するから多分大丈夫と思うんですけど、大集会室とかいろいろ、今度期待するような形に、キャパも増えているんですが、ハード的なこともそうですけど、周りの壁もそうですけど、かなりこちらよりももっと老朽化してたように私は思うんです。3階なんか特に雨漏りをしてたと思います。そういった、今回3階のここのトイレの出口で出来上がった後雨漏りがしましたが、そういったことは大丈夫でしょうか、確認ですが。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） お見込みのとおりでございまして、中央公民館、保健センター、こちらについては市の設計当時、こういったところでよく設計はしてたんですが、不可視部分、見えなかった部分で相当老朽化が進んでおります。

先ほど言われました天井裏、のぞいて見ましたら雨漏り、それから防水ができてないところ、また外壁も見えないところではつって見ればクラック、こういったものが予想以上にあるということが今判明しております。

工事をやはり適正に、また快適に、長寿命化を図りながら使っていただくという観点から、予算をどう対処したものかということで、まさに今検討しております。

契約変更の対象として工事を進めていくのか、また実施するとすれば機動的に別途工事で並行してどんどん進めていくか、工期等もありますので、そういったところもいろいろ関連工事として発注していく、可能な限りできるように対応していけるよう進めていきたいと考えており

ます。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） さっき特例債があと二、三十億円まだあるというのをお聞きしたんで、これももう来年3月で終わりでしょうから。後でまたこうせにやあいけんかった、ああせにやあいけんかった、後からの工事ってのはかなりかかると思うんですね。もともと予算が抑えられているようなこともあるんですけど、やはり備品も含めてきちっとやっていただきたいと思うんですけど。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） おっしゃるとおりで、有利な財源がある中で、そちらもきっちり検討しながら進めてまいりたいと考えております。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 本庁舎のときにも途中経過を見学させていただいたんですけど、ぜひ、今隣もそうですし、中央公民館とか保健センターもそうですけど、1回、都合もあるでしょうけど、委員会として委員長にお願いですけど見学をさせていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（大口浩志君） 前回のときも申し上げましたが、先ほども大窄課長からも何回もありましたように、工期のことですとかいろんなことが途中で1回ギアチェンジもして逼迫しておるようなことは聞いておりますので、今の内容につきましては執行部とも調整させていただいて、もう1番は仕事の邪魔をしないというところで調整ができれば皆さん方に御案内させていただきたいと思います。

ほかにございませんか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） ホームページによる情報発信ですけど、いろいろ苦勞されてることは分かるんですけど、3月議会で私、予算常任委員会だったと思うんですけど、戸籍の広域交付、これは決まってるのにホームページで全然紹介されてなかったということを質問させてもらってすぐ載っていただきました。

同じようなことが実は、この議会初日に議決された例の定額減税、これが私、昨日一応見たんですけど、まだ赤磐市のホームページでは紹介されていないように思うんです。ほかの市町では載ってるところが結構あります。そんなところで情報発信についての市の姿勢を見られるんじゃないかと思うんで、見たらこれ、国から多分指示が来てるような、大体同じようなフォー

ムでほかの市も載ってるんで、赤磐市にもそういったフォームが来てるんだと思うんですけど、どのくらいの方が見られるか分かりませんが、やっぱり予算も議決されてるし、こういった制度が始まってますよということを市民あるいはよその方も見られる、赤磐市がどういう取組してるかなということを比べられるので、ほかもやってるようなことは赤磐市もどんどん発信していくべきじゃないかと思ってるんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（大口浩志君） 広報、お知らせというスタンスというところで御答弁がいただけるようでしたら答弁ください。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 小引課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） 御提案ありがとうございます。

おっしゃるとおり、予算が通りましたもの、また市民の皆様非常に関連が深いものにつきましては、特にホームページでのお知らせを皆様になるべく早く提供させていただけるように、担当課からも皆さん、各部に提案なり、こういったものが載っていないという気づきも含めてお知らせをさせていただくように努めたいと思います。

○委員長（大口浩志君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 多分担当課はそこまで気が回ってないかも分からないんですけど、ホームページ全体を統括してるのはこちらであると思うんで、その辺も担当課に目配せをしていただいて、周知漏れがないように取り組んでいただければと思います。よろしくお願いします。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○副委員長（安藤利博君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） LINEアプリの状況を教えてほしいなと。9月ぐらいにはできると前聞いたんですけど、今どんな状況なのか。また、このLINEアプリでどういったことをできるようにしようと思ってるんか、さっきAIの話もありましたけど、AIのアプリもあるわけですし、LINEアプリもやるわけでしょう、そういったことも含めて教えていただきたいんですけど。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 小引課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） LINEの状況につきましては、7月2日にプロポーザルを予定させていただいておりまして、その後業者が決定いたしましたら、実際に内容を詰めさせていただいて契約、その後導入に向けての構築というふうに動く予定にしておりますので、実

際には大変多くの機能を盛り込もうと思っておりますので11月ぐらいに導入できればいいかなと、今のところまだ業者が決定しておりませんのではっきりしたことはこの場で申し上げにくいところもございますが、そのぐらいをめどに動かさせていただきたいと思っております。

機能につきましては、これまでも各委員の皆様から御提案いただいております、例えば電子申請で各種の証明を取れたりですとか、それから道路の損傷の通報をいただいたり、あと窓口の予約システムを入れたりですとか、あとは実際、もちろん情報発信もさせていただくんですけれども、セグメント登録といいまして、例えばお住まいの地域だったり、それから性別、それから年代などを入力していただくことによりまして、例えばその方がごみの情報が知りたい、子育ての情報が知りたい、そういった区分も入力していただくことによって、御自分がお知りになりたい情報のみを取得することができる、また市からは災害が発生した場合にその登録にかかわらず全体的に同じものを発信させていただくこともできる、そういった情報の発信の仕方につきましても工夫をしながらさせていただけたらと思っております。

地域を登録していただくことによって、例えば今日はごみ出しの日だなとか、そういったこともお知らせできる機能も盛り込みたいと思っておりますので、また実際にLINEを導入できる業者が決まりましたら、こういった機能というのがはっきり申し上げられるかなと思っておりますので、改めて御案内させていただけたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） これから7月に業者が決まって、11月頃をめどにと今話があったんですけど、LINEの管理というのは秘書広報課がするんですか、それとも業者に委託するんですか、その辺のことを教えていただきたい。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 小引課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） システム構築は委託をさせていただきます。実際の日々の運営というか管理につきましては秘書広報課でさせていただくんですが、例えば証明書の発行ですと税務課とか市民課がそれぞれ管理の画面を持っていて、そちらでどういった方から申請が来ているかというのを確認できるようにするとか、それぞれの機能によって関わっていただく部署は変わってきますけれども、基本的には大きな管理は秘書広報課でさせていただく予定としております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 倉敷市がLINEアプリじゃないんですけど、そういった独自のアプリ

リを開発されて、何かいろんな情報発信も含めてやってみたいなんで、かなりお金がかかってみたいですけど、そこまではできないんですけど、ぜひそういったところのいいところを参考にいただければと思うんですけど、どうでしょうか。

○秘書広報課長（小引千賀君） LINE導入に当たりまして様々な自治体へ視察にも行かせていただきましたし研究もさせていただいております。引き続き先進地の視察も含めて研究を進めさせていただいて、導入させていただく機能があればまた検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） なければ、その他のその他については以上で終了とさせていただきます。

先ほども御指摘がございましたが、その他で御説明がございましたひかりの実プロジェクト、ホームページへは載っておるということでございましたが、ここへあるタブレットへも、担当課がしていただくのか事務局がしていただくのか分かりませんが、早めに、より人の目に触れるという意味で、早めに手続をしていただけたらと思います。

次に、委員会の閉会中の継続調査及び審査について御確認をお願いしたいと思います。

配付しておりますとおり、議長に対し閉会中の継続調査及び審査の申出をいたしたいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） それでは、このように申出をいたします。

次に、閉会中の委員派遣についてお諮りをいたします。

閉会中の審査及び調査案件について、委員派遣を行う必要が生じた場合、議長に対し委員派遣承認要求を行うこととし、派遣委員、日時、場所、目的及び経費等の手続につきましては委員長に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） それでは、そのようにさせていただきます。

以上をもちまして総務常任委員会を閉会といたします。

午前11時0分 閉会